

わんこの熱中症

これから夏本番！ワンちゃんの命にもかかわる熱中症について、症状や対策を知り、しっかり予防しましょう！

症状

【軽度】

- 急激に体温が上がり、ハアハアと苦しそうにしている
- よだれを大量に出す
- ふらついて倒れる

【中度】

- ぐったりする
- 意識が混濁し、呼びかけにもあまり反応しない

【重度】

- 完全に意識がなくなる
- 全身性のけいれん発作を起こす



応急処置

【意識がある場合】

- ① 涼しい場所に移動させる
 - ② たくさん水を飲ませ、水分補給を行う
 - ③ 水で濡らしたタオルを頭やわきの下、内股のつけねに押し当てたり、体全体に水をかけるなどして、急いで体温を下げる
- ※ 体温は下げすぎないように注意！
39°Cまで下がったら冷やすのをやめ、なるべく早く病院に連れて行き、獣医師の診察を受けましょう。

意識がない場合は、水を体全体にかけるなどして急いで体温を下げる処置を行いながら、一刻も早く動物病院に連れて行きましょう！

熱中症を起こしやすい状況

1. 車内での留守番

エアコンをつけずに停車した車内は音頭が急上昇し、たった数分で熱中症になってしまうことがあります。窓を少し開けたとしても、換気が十分ではないうえ、不慣れな車内で犬が興奮すれば、体温の急上昇に繋がります。

2. 室内での留守番

エアコンをつけていない室内での留守番も熱中症の原因になります。ケージの中など、犬が自分で涼しい場所に移動できない状態は、さらに危険です。

3. 直射日光の当たる屋外

4. 日中のお散歩

真夏のアスファルトの上は50°C近くに達します。地面近くを歩く犬は、照り返しによる放射熱を受けやすく、一緒に歩く人間の想像以上に暑さの影響を受けています。

予 防

- 車で出かける場合は、なるべく車内に留守番させないようにしてあげてください。また、水分補給も忘れず！
- 家の中では、風通しに気をつけ、エアコンをつけるなど、室温が上昇しないように心がけましょう。ケージの中に入れる場合は、設置場所に気をつけてください。飲み水の量や入れ物の置き場を工夫し、十分な水分補給ができるようにしましょう。
- 外飼いの犬は、日除けを設置したり、繋留する場合は日陰の涼しい場所を選んであげましょう。また、水分補給も忘れないようにしてください。
- 日中の散歩は控え、早朝か夜の散歩に切り替えましょう。また、なるべく草や土の上を歩かせるようにして、普段より散歩の時間を短くしてあげることも大切です。



みや動物病院

TEL : (0797)35-1007

HP : <http://www.miya-vet.com>

時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:30~12:00	●	×	●	●	●	●	●	●
17:00~20:00	●	×	●	●	●	●	●	●

---メモ---

犬は人間のように発汗による体温調節があまりできません。そのため、人間よりも高温多湿の環境に弱く、熱中症にかかりやすいと言えます。気をつけていても確実に予防できるものではないですが、くれぐれもお気を付けてください。